

湖西市学校再編検討結果報告書【白須賀地区】（概要版）

1 再編検討の経緯

急激な少子化の進行を考慮して令和3年6月に学校教育施設適正化検討委員会を設置し、本市の小規模小中学校の望ましい教育環境を検討し、報告書にまとめました。また、今後のよりよい教育環境の実現に向けた「湖西市立小中学校再編方針」を令和5年5月に策定しました。その後、再編方針に基づき、白須賀地区において学校再編検討委員会を立ち上げ、学校再編に向けた検討を行ってまいりました。

適正化検討委員会報告書にて示された、中学校における望ましい教育環境については次のとおりです。

教育環境	理由（抜粋）
【1学年の生徒数】 30人以上	・切磋琢磨しながら学校生活を送り、心身を大きく成長させることができる。 ・人間関係に問題が生じた場合でも、新たな人間関係を築きやすい。
【1学年の学級数】 2学級以上、できれば3学級	・人間関係に大きな問題が生じた場合には、子どもにも、保護者にも居場所がなくなってしまう可能性が高い。 ・学級ごとに競い合う学校行事を通して、協力することの大切さを学ぶことができる。

2 検討の方向性

「湖西市立小中学校再編方針」において、“小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案”との方針を示しましたが、保護者との意見交換会や白須賀地区学校再編検討委員会にて、白須賀中学校の存続を望む声が多く出たことから、**白須賀中学校の存続を含めた形で、再度検討**を進めました。

A案（白須賀小学校と白須賀中学校ともに存続する案）とB案（白須賀小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案）について比較し、各案の①概要、②考えられる教育効果、③通学方法、④懸念事項について、整理しました。

再編案	A案	B案
	白須賀小学校と白須賀中学校ともに存続する案	白須賀小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案
① 概要	少人数だからこそ可能な教育が推進できる。そして、 地域との密接な連携により地域全体が学びの場 となり、実社会との接点を持ちながら学ぶことができる環境下での「体験学習」など特色のある学校づくりを進める。また、小学校も存続することから、隣接する小学校の利点を生かし、連携した取り組みで教育効果を高めていく。	近隣の中学校と統合することで、 将来的にもクラス替えが可能となる規模を維持 することができる。生徒たちは同学年の多くと仲間と関わる事が可能となり、学びと活動の幅が広がる事が考えられる。小学校は存続することから、小学校における地域住民とのかかわりはこれまでと同様に続いていく。
② 考えられる教育効果	生徒一人一人に役割を任せられる場面が多く、 責任を持って取り組むことの大切さや、自己肯定感、自己有用感を育む ことができる。 など	小規模校と比較すると多様な考えに触れる機会が多くなり、 自他の違いに気付いたり、自分らしさを磨いたりすることで、自己を成長 させていくことができる。 など
③ 通学方法	現在の小学校と中学校を存続するため、 通学については現状と変わらない ことが想定される。	中学校を近隣の中学校へ統合するため、 多くの中学生の通学距離が長くなる ことが想定される。
④ 懸念事項	小学校から中学校まで同じクラスとなるため、 人間関係が固定化され、集団内での立場関係をその集団のみで改善することが難しい 可能性がある。 など	通学距離が長くなる生徒が多くなり、 生徒や保護者の通学にかかる負担(通学時間の増加、送迎の調整 等)が増加する 可能性がある。 など
(参考) アンケート調査結果	A案： 61.0% A案、B案以外： 7.9%	B案： 30.6% 無回答： 0.5%

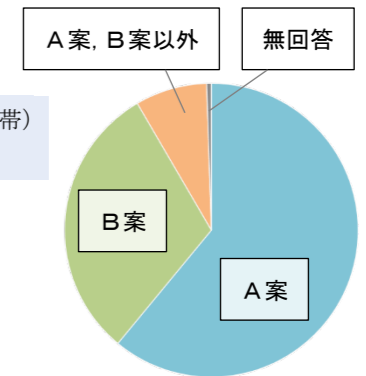
【参考】アンケート調査実施概要

1. 調査対象及び実施期間

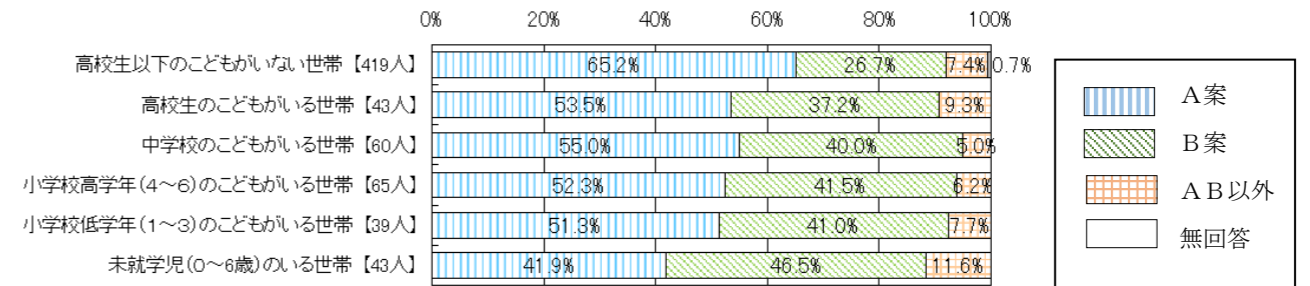
調査対象：令和7年度10月時点で白須賀地区にお住まいの世帯（対象：1,121世帯）
期間：令和7年10月21日（火）～11月21日（金）

2. アンケート調査結果

- ・今回のアンケート調査の回答率は、51.92%（582/1,121世帯）です。
- ・白須賀地区の方々が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答は**A案が61.0%（355人）、次いでB案が30.6%（178人）、**A案、B案以外の案は7.9%（46人）、その他0.5%（3人）でした。
- ・子どもの年齢による世帯別の望ましいと考える再編案は次のとおりで、**小学校以上の子どもがいる世帯ではA案が望ましい**という回答が多い一方で、**未就学児（0～6歳）のいる世帯ではB案が46.5%と最も多く、**次いでA案が41.9%、A案、B案以外の案は11.6%でした。



グラフ：白須賀地区の中学生以下の子どもがいる世帯が望ましいと考える再編案



表：「望ましいと考える再編案」の主な選択理由（選択肢方式）

【A案】白須賀小中学校ともに存続		【B案】白須賀小学校そのまま、中学校は近隣中学校	
・通学（距離、安全面）	81.1%	・同学年間で多くの人と関わることができる	86.4%
・地域とのつながりが維持できる	67.4%	・活動の幅が広がる	71.8%

3 今後の小中学校の在り方について（学校再編検討委員会の意見）

委員から挙げられた主な意見を整理したものです。学校の「存続」・「統合」の結論を示すものではなく、今後、市が最終的な判断を行うにあたり、検討すべき論点及び留意事項を整理することを目的としています。

- ・これまで実施したアンケート結果が現時点における地域住民や児童生徒の意見を反映したものであると考え、小中学校ともに「存続」とするのが妥当である。
- ・地域住民アンケートの結果より、未就学児のいる家庭の意見では、「統合」を希望する意見の割合が高くなっていることにも留意すべきである。
- ・小中学生のアンケート結果からクラス替えはあったほうが良いと思う子どもも一定数いるということを見逃してはいけない。
- ・大規模校に組み込まれていく「統合」ではなく、体育大会や文化祭を市内の他校と一緒に実施するなど足りないものを補い合えるような学校の在り方も模索されるべきである。
- ・児童生徒数など学校の規模だけに偏らず、学校再編の検討をしてもらいたい。

本報告書に基づき、市及び教育委員会で検討を進め、令和8年度中に総合的に判断をします。